事例No.	2644
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	専門学校職藝学院

事例区分	地域活性化

タグ	・人材確保・育成 ・関係人口 ・地域運営組織

事例種類	人材確保・育成

事例内容・タイトル

専門学校職藝学院

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

専門学校職藝学院

富山県富山市

概　　要



地方はもとより我が国の伝統文化は、職人の技と地域に固有の材料で伝承されている。開学した1990年代の我が国の状況から新産業への期待と相まって、伝統文化を担う新たな職人の育成が課題となっていた。

このとき、職人の卓越した技が生み出す芸術性に着目した新たな概念を「職藝」と表し、熟達職人とベテランの教育者による大工と庭師の技と心を総合的に身につけさせる職藝学院が平成８（1996）年に創設された。実物（実際の建築や庭など）を教材とした現役の職人による教育プログラムを展開し、ふるさとづくりに寄与しているところが特筆される。

評価された点



・「職藝」の概念を基に人材教育と地域の伝統建築、庭園の復元、修復、田園景観の形成を実現している好事例。

・大工と庭師の技と心を学ぶ教育機能とともに、地元の歴史的建造物や、文化財、民家の木造建築物や庭園の修復や復元を担う役割も担っている点が注目される。地元のＮＰＯと連携して里山居住の魅力を提言するなど、故郷への思いを醸成するための幅広い活動はオリジナリティ溢れる地域づくりの取り組みであり、賞賛に値する。

・富山県の伝統的な修復・復元技法の継承を目的としており、県外からも多くの生徒を受け入れている。卒業後は県外で活躍する者もいるなか、県内に定着した者が多く、歴史的建造物・文化財の景観形成に寄与している点が評価できる。

・日本庭園や日本家屋は世界的にも評価が高いが最近の住宅では価格や材料難もあり、伝統家屋の建築は多くない。従って伝統的な技術や技の伝承は非常に厳しい時代となっている。職藝学院では、庭と建物を一体化し「庭づくりがわかる大工」の育成を行っている。視点がユニークであり、人材育成も不可欠。

・ものづくりの優秀さ、日本の魅力と高く評価されながらも、次世代の人材養成の実践的な手立てが見出せず、伝統技術各分野の独力の力に頼らざるを得ない状況が続いている。職人が先生、しかし熟達した技を公開、広く若者達に実践の場で客観的に伝え、学ぶ教育方法を日本で唯一総合的な伝承学校として事業継続されている。まさに大賞にふさわしい活動である。地域独自に永年蓄積された職人の芸術性と高い技術を惜しむことなく公開し、指導するあり方は極めて貴重であり、他の地域の影響力も大きい存在である。